

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592200010		
法人名	有限会社 鶴鵠		
事業所名	グループホーム 逍遙亭		
所在地	宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字三ヶ所10547-1		
自己評価作成日	令和2年8月	評価結果市町村受理日	令和2年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム逍遙亭の理念
「私たちは家庭的な環境の中で入居者の皆さんのペースに合わせ「ゆっくりゆったりいつも一緒」をモットーにお世話することを誓います」この理念を毎朝職員で唱和することで再度認識しながら実践に取り組んでいます。
当施設は多くの神様に守られ自然環境に恵まれております。数種類の木々は季節の移り具合を教えてください。秋になったら入所者が栗やいちじくの実を拾っておられます。この自然豊かな景観は入所者やご家族の皆さんの気持ちもほぐしてくれるものと思います。また地域との交流もあり、子供会や消防団、公民館長、民生員等の方もいつも気にかけてくださいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは高台にあり、周囲には四季折々の花や野菜、果樹が植えられている。玄関は施錠せず、周辺の散歩や野菜の収穫など、日常的な外出ができる環境づくりに努めている。毎朝、月間目標を唱和し、職員は理念の実践に努めている。家族の参加や協力が得られるよう家族に年間計画や行事を知らせるなどして、利用者にとって居心地の良い環境づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務する職員で毎朝理念、月間目標を唱和することで新たに認識して実践につながるよう取り組んでいます。	理念と毎月変わる月間目標を毎朝、職員で唱和し、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ騒動で交流ができなかったが、昨年は保育園児が来訪したり、地域の親子会が七夕を飾りに来たり、地域のボランティアが慰問に来られたりと地域に溶け込み、交流もできている。地域の公民館長や消防団、民生員たちの方々もよく気にかけていただいている。	地域の保育園児や親子会、ボランティアとの交流を行っている。運営推進会議には地域の役員が参加し、地域の行事を把握し、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	五ヶ瀬町では認知症に関することは逍遙亭にという考えがあるのか職員がプライベートの場所でもよく相談を受けることがあります。職員一人ひとりの資質を高め、今後も地域に頼られる存在になりたいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しているが、2町の行政担当者、社協、家族の方、町議会の議員、地域の方たちから運営のあり方について提言も頂き、それらを日常で生かしていくように取り組んでおります。	2か月ごとに五ヶ瀬と日之影の行政の担当者や地域の代表者に参加してもらい、事故や研修報告、意見交換を行い、そこでの意見を運営に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者はいつも気にかけてくださり、常に提言、指導をして頂いています。福祉、保健、包括ともよく連携が取れていて相談しやすい間柄になっております。	日頃から役場や社協、地域包括支援センターとは連絡を取り、相談や情報交換など協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠をせず、もちろん入所者を拘束したこともありません。定期的に身体拘束についての勉強会を行い、利用者の安全を保っています。	開設時から玄関の施錠はせず、ホーム近辺の自由な散歩をしている。定期的に身体拘束の勉強会を行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修会には施設長と共に受講しています。それはいつも全体会で発表しております。通報の義務と虐待に至るスタッフの心理状態等についても話し合いをしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には職員が常に受講しています。成年後見制度を利用したことはありませんが、日常生活自立支援事業を利用しておられる方もおられるので関係者とも常に話し合いながら、協力し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には施設長、ホーム長、ケアマネジャーとで家族に納得いただくように説明しています。家庭訪問や施設の見学で家族の十分な理解をいただくようにしています。家族からの不安や質問には全職員が対応できるように共有しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議には家族に出席いただき、施設の運営について理解をして頂けるように図っています。また家族からはなかなか意見は出にくいようですが、職員と個々の付き合いでは洩らされることもありますのでその意見を運営に反映させるようにしています。	年間行事計画を家族に送付して参加を呼びかけ、意見や要望を聞く機会を設けるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会を開催しており、その際に職員全員で意見を出すようにしています。疑問や問題があれば職員から管理者へ管理者から施設長へと意見を提案し、反映するように心がけています。	職員は感じたことを勤務中でも相談したり、全体会議の時に提案できる体制づくりに努め、職員の意見や提案はサービスに反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の家庭環境に応じた勤務体制を敷かれ、働きやすい職場環境が整えられています。資格手当等も支給され、職員全員がやりがいを持って勤務しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への出席は施設長自らも参加し、職員の参加にも理解があります。職員は自ら勉強して介護の質を高める努力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年は町の主催する地域連携ネットワーク会議にも出席して大変勉強になりました。県北ブロック研修会等で他施設のスタッフと交流する機会もあります。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して逍遙亭で過ごしていただくために事前に面接や家族への聞き取りを行い、職員全員でその人の性格、生活背景等理解するようにしています。その方が不安な状況の時は全員で情報共有して、見守るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がなぜ施設入所を希望されたのか、その気持ちをしっかりと受け止め、その上で逍遙亭の理念等を説明し、安心していただくように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人、家族の状況を理解し、何が必要か見極めて、他のサービスが必要ならばそれを紹介するようにします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は全てを介護するのではなく、本人ができることを見極めてその人ができることはして頂くようにしています。声掛け誘導をしながらできたことを認め、残存機能の保持に努めるように支援します		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は本人を気にかけてよく面会に来られます。また、イベント、行事にもよく参加してくださいます。そういう時には家族の思いをできるだけ受け止めるようにしています。遠くて面会ができない家族には毎月近況を知らせたり、写真を送るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や衣料品店に時々来ていただいています。またボランティアの人、友人等の訪問もあります。病院受診もこれまでのかかりつけ医なのでそこで出会う知り合いの方もおられ喜んでおられます。	地元の祭りや三社参り、ドライブに出かけたり、地元の馴染みの美容師に毎月、散髪してもらうなど関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリの中でも野菜の下ごしらえ等は昔話に話が咲きます。トラブルが起こった時はテーブルの座る場所を考えたり、食事時は職員が横に座るなどして一人ひとりが傷つかないように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供書を作成したり、問い合わせがあれば対応しています。ほとんどの方が地元の病院、施設に移られる場合が多く、家族の承諾を得て面会に行くこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動をそのまま記録に残しています。その中でも特に気になる部分は申し送り簿に記入し、より全職員で理解して対応するようにしています。	日常の会話や言動から希望、意向の把握に努めている。また、アセスメントや家族から趣味や好きなものを聞いて個別ケアに生かすよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の他機関からの情報や、アセスメント、家族からの聞き取りをもとにこれまでの暮らしを把握するようにしています。入所後は日常会話や行動を観察することで分かることも多いです。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員がそれぞれの勤務時間の中で気付いたことを報告しあい、総合的に状況を把握するように注意しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は長期目標や短期目標の設定期間での見直しだけでなく、状況の変化に応じてすぐ見直すようにしています。毎月のモニタリングと家族からの要望、職員からの気づき等を参考にして作成します。	毎月、モニタリングを実施し、全体会議で課題や意見を出し合い現状に即した見直しをし、本人本位の介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はその時の状況が詳しく記録され、その場になくても情報を共有できます。それを全体会や朝のミーティングで検討し、次の支援に生かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出やイベント時はシフト以外の職員からも協力があります。入所者が安心して過ごせるようにみんなで取り組んでいます。また職員の家族や入所者の家族からの支援もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや町の社協とは協働ができていて情報交換はよくできています。民生委員、ボランティア、商店等の人たちとも協働はできています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が入所前からのかかりつけ医にかかっておられます。他の病院を診するときは本人、家族の同意を得ております。	入所前からのかかりつけ医の受診を支援している。受診時には同行し、家族との情報の共有を図り、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員全員が入所者をよく観察していて状態の変化に早い段階で気付いています。何かあれば看護師にすぐ報告があり、病院受診へと繋ぐようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、入院後はほとんど毎日様子を伺いに行き、主治医、看護師からも情報を聞くようにしています。また受診の際にできるだけ入所者の情報を伝え、相談に乗って頂ける関係づくりができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、看取りになつたときは管理者を中心にどこまで支援していくことが可能かを検討しています。困難になったと思われるときは施設長に報告し、家族やかかりつけ医ともすぐに相談して対応を決めています。リビングウィル(終末期医療の事前指示書)も作成しています。	入居時に終末期の同意書で意向を確認している。重症化した場合は家族や主治医と連携してできる限りの対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は以前に講習を受けたことはありますが定期的に訓練を行っていないので、今後は行う必要があります。全職員が応急手当でできるようにしていきたいと思えます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害避難訓練と火災消火訓練を実施している。食料、飲料水、燃料、ガスコンロ、電灯も備蓄しています。地元の消防団に車いす利用者の誘導等の訓練も行っています。災害通報通知には地元の方の電話登録もしています。	災害避難訓練には地元消防団に連絡を取り、誘導や搬送の共同訓練をしている。しかし夜間の想定訓練が行われなかったり、近所の住民の参加がないなどの課題がある。	近隣住民にもホームの構造や利用者の状態がわかるように避難訓練に参加してもらい、夜中の避難誘導など具体的な協力体制の構築を期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職の倫理として人格の尊重とプライバシーの確保ができるように言葉かけや対応には十分注意しています。また気になるところは職員間で注意し合います。	全体会での話し合いや職員間でも言葉かけや対応など注意し合う雰囲気があり、人格や誇りを傷つけないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者のことばに耳を傾け、また表情や行動で汲み取り、利用者の思いを引き出すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったり、ゆっくり過ごすことができるように、一人ひとりのペースに合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と相談して好きなもの、季節に合ったものを着ていただくように声掛けしています。髪染めやカットは要望時に町内の美容師さんに来ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が常に喜ばれる食事づくりに工夫しています。誕生日にはその人の好きなものを提供し、イベントや行事食を大事にしています。咀嚼能力に応じ小さくしたり、柔らかくしたり、また食事を楽しんで頂きたいので苦手なものは食べられる工夫をしています。	旬の食材を利用して季節感のある食事作りに努めている。また誕生日や行事の際には利用者の好みに合わせた食事の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行うことで食事の量を調整しています。必要な人は栄養士による指導も受けています。また水分の摂取には十分注意し、尿量が少ないと感じるときは積極的に清涼飲料水等を摂られるように気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアを実施しています。できるだけ利用者にして頂きながら、できないところを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼、夜常におむつ使用の方は排泄パターンを把握しトイレ誘導をしています。布パンツ使用の方は早めにトイレの声掛けをしています。できるだけ布パンツを利用されるように支援しています。	排せつパターンを把握して布パンツへの自立に向けた取組をしている。夜間帯もトイレ誘導し、自立習慣が継続されるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事を心がけ、水分もできるだけ摂取して頂くようにしています。朝食にはヨーグルトを毎朝出しています。どうしても排便が困難な人には主治医と相談して薬による排便コントロールもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回交代で入浴を実施しています。その人の能力に合わせ入浴支援をしています。入浴を拒否される方にはできるだけ清拭を行います。また入浴剤でリラックスして頂いたり、ゆず湯をすることもあります。	週3回、午後からゆっくりと個々に合わせた入浴介助が行われている。しょうぶ湯やゆず湯など季節感のある、工夫した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室を暖房や冷房で温度調整し、加湿器も使用します。照明もそれぞれに合った対応をしています。眠れないときは水分の補給をして頂いたりすることもあります。決して無理強いすることなく休息もゆっくりできるように声かけて見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を記録簿にとじ、全員で薬について理解をしております。薬の変更があったときはその理由等も全員に伝え、服薬間違いがないようにしています。服薬時には職員2名でチェックし、確認票も付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で何でもされていた方は積極的に手伝いをお願いしております。また各個人のできる能力を見ながら生活リハビリ、作業リハビリの役割を担っていただくように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつもの年なら季節ごとに入居者をドライブに連れて行ったり、花見、川遊び、紅葉狩り等あるのですが、今年はそういったことができないので桜の季節は受診帰りに花見に連れて行ったり、中庭で花見をしたりと工夫しています。外出できるようになったら計画的に外出支援をしていきます。	地域の祭り、ドライブ、花見、外食など計画して外出することが多い。また施設周辺への散歩や花見、収穫など日常的に外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブルがないように施設で管理しています。中には自分で買い物に行くと云われる方もおられますが、常に家族と連絡を取り、本人の気持ちに沿うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話する方はおられないので、何か要望等あるときはすぐ電話等でやり取りができるようにしています。家族に用事がある電話するときはご本人にも替わっていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前は広く、玄関のソファでゆったり過ごす方もおられます。ホールは天井が高く気分的にゆったりします。冬は和室にこたつも置き、こたつに入ってテレビを見る方もおられます。森に囲まれているため静かでとても落ち着きます。	ホーム内外に自然が感じられるように玄関の扉を開放し、暖炉を中心に日頃の様子がわかるようにあらゆるところに写真が飾られている。温度管理もされ、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス前のソファが大変人気で、数人で集まり昔話に花が咲くこともあります。冬はストーブを焚きますが、全員ストーブが大好きで暖炉を囲んでお茶されることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が気持ちよく安心して過ごせるように使い慣れた家具を持って来て頂いたり、仏壇やお位牌も持って来られる方もおられます。また、ここの緑深い環境が落ち着くと言われたり、窓からの景色が自宅と似ていると喜ばれる家族もおられます。	馴染みの家具や置物、写真など本人と相談して居室に飾っている。利用者が安心して居心地良く過ごせるように環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、補助具の使用や家具の配置等でできるだけ自立できるように支援している。すぐ介助するのではなく本人のやる気を出すように声掛け等工夫している。		